

概要

Cate コンパイラは C に似たプログラミング言語のコンパイラです。

生成されたアセンブリコードをアセンブルするには Asm8 (<https://github.com/inufuto/asm8>)を使用します。

対象 CPU

CPU	実行ファイル名
Z80	cate80.exe
6800	cate68.exe
6809	cate09.exe
6502	cate65.exe
TMS9900	Cate99.exe

C との違い

- データ型が異なる(最小単位は 8bit)
- プリプロセッサは`#include`のみ
- 再帰手続き不可
- 可変引数不可
- ポインタと配列の表記が異なる
- 構造体使用時の表記が異なる
- 乗除算は定数のみ

実行方法

コマンドプロンプトで実行します。

Z80 用: cate80 ソースファイル名

6800 用: cate68 ソースファイル名

6809 用: cate09 ソースファイル名

6502 用: cate65 ソースファイル名

TMS9900 用 cate99 ソースファイル名

データ型

プリミティブ型

byte	符号なし 8 ビット
sbyte	符号あり 8 ビット
word	符号なし 16 ビット
sword	符号あり 16 ビット
bool	論理型

論理型には `true`, `false` 定数を使用できます。

ポインタ

C と表記が異なります。

```
ptr<型>
```

ヌルを表すためには 0 ではなく nullptr 定数を使用します。

構造体

型定義では struct キーワードを使いますが使用時は型名のみを記述します。

独自構文

名前付き定数

constexpr キーワードで、名前付き定数を定義できます。

```
constexpr 識別子 = 定数式
```

for 文

配列に限り、範囲ベース for ループを使用できます。

```
for (ポインタ : 配列)
```

repeat 文

repeat キーワードで、回数が固定されたループを記述できます。

```
repeat (定数式)
```

アセンブリ生成

名前

アセンブリに出力される関数名及び変数名には末尾にアンダースコアが付きます。

引数と戻り値

関数呼び出しの引数と戻り値はレジスタまたは固定アドレスメモリを通じて受け渡しされます。スタックに積まないので再帰呼び出しはできません。

CPU	サイズ	戻り値	第 1 引数	第 2 引数	第 3 引数	第 4 引数
Z80	8bit	A レジスタ	A レジスタ	E レジスタ	C レジスタ	メモリ 関数名_@Param3
	16bit	HL レジスタ	HL レジスタ	DE レジスタ	BC レジスタ	メモリ 関数名_@Param3
6800	8bit	A レジスタ	A レジスタ	メモリ 関数名_@Param1	メモリ 関数名_@Param2	メモリ 関数名_@Param3
	16bit	X レジスタ	メモリ 関数名_@Param0	メモリ 関数名_@Param1	メモリ 関数名_@Param2	メモリ 関数名_@Param3
6809	8bit	A レジスタ	A レジスタ	B レジスタ	メモリ 関数名_@Param2	メモリ 関数名_@Param3
	16bit	D レジスタ	X レジスタ	Y レジスタ	メモリ 関数名_@Param2	メモリ 関数名_@Param3
6502	8bit	Y レジスタ	メモリ 関数名_@Param0	メモリ 関数名_@Param1	メモリ 関数名_@Param2	メモリ 関数名_@Param3
	16bit	下位 Y レジスタ 上位 X レジスタ	メモリ 関数名_@Param0	メモリ 関数名_@Param1	メモリ 関数名_@Param2	メモリ 関数名_@Param3
TMS9900	8bit	R0 の上位 8 ビット	R1 の上位 8 ビット	R2 の上位 8 ビット	R3 の上位 8 ビット	R4 の上位 8 ビット
	16bit	R0	R1	R2	R3	R4

ランタイムライブラリ

以下のランタイムライブラリをリンクする必要があります。

CPU	ファイル名
Z80	cate80.lib
6800	cate68.lib
6809	cate09.lib
6502	cate65.lib
TMS9900	Cate99.lib